

感染症危機管理リーダーシップ研修 (短期)の受講を経て

2025年10月29日公衆衛生学会 自由集会

横浜市健康福祉局地域包括ケア推進課 阿部礼以亜

日本公衆衛生学会COI開示

発表者名：阿部礼以亜

演題発表に関連し、発表者に開示すべきCOI関係にある企業など
はありません。

自己紹介

- 2002年 横浜市入庁(保健師) 金沢区サービス課高齢者支援担当
- 2013年 栄区こども家庭支援課こども家庭支援担当
- 2015年 戸塚区こども家庭支援課こども家庭支援担当(係長)
- 2018年 こども青少年局こども家庭課児童虐待・DV対策担当
- 2021年 健康福祉局(現医療局)健康安全課健康危機管理担当
- 2024年 医療局健康安全課企画調整係 感染症危機管理リーダーシップ研修(短期)
- 2025年 健康福祉局地域包括ケア推進課介護予防担当

横浜市について



みなとみらいの風景(本人撮影)

横浜市について



新型コロナウイルス感染症発生時の客船対応(市職員撮影)

横浜市について



神奈川県



横浜市

- 人口 約377万人
(最大の基礎自治体)
- 行政区 18区
- 職員数 46,066人
- 保健師数 579人
(それぞれ非常勤職員数等除く)

研修の活用事例 リスクコミュニケーションの推進

2019年に発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対応における市保健所のリスコミに関する課題

- 市民が何が正しい情報なのか判断するのに困っていたように感じた。
- 過去の感染症患者に対する差別と同様、多くの差別事案が発生した。
- ホームページ・チラシ・SNSの発信について、各区で対応に差が出た。
- 戦略的な広報体制が整っておらず、十分かつ効果的な広報が行えなかった。

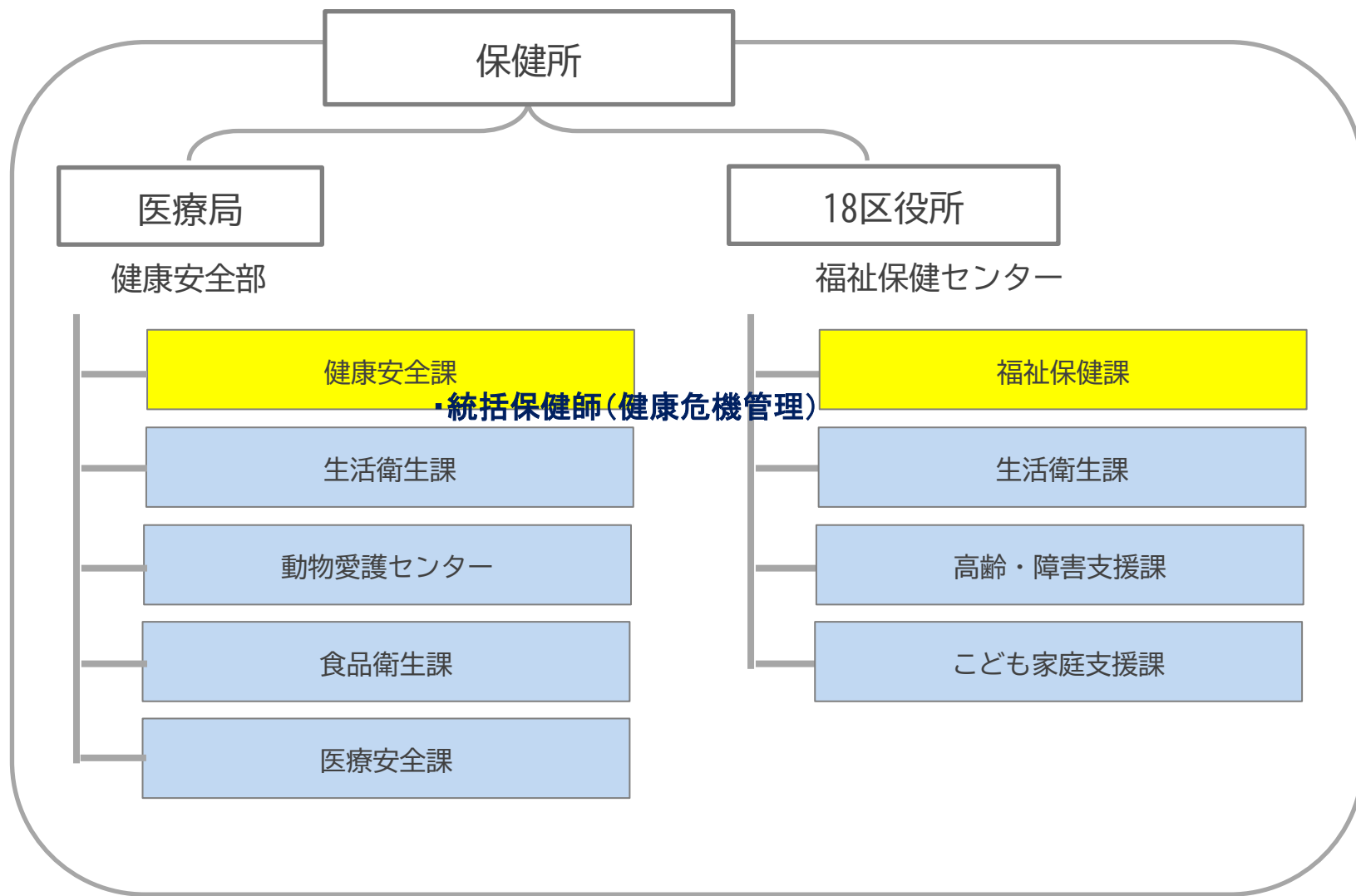
リスコミは2009年の
新型インフルエンザ対応でも課題

新型コロナ発生時の新型インフルエンザ等対策行動計画上にリスコミの文字はなし



市保健師は(事務職員も)
リスコミを知らない！

研修の活用事例 リスクコミュニケーションの推進



→ **1保健所と18支所**
(医療局健康安全部と区福祉保健センターで構成)

感染症や食中毒、
生活衛生、
医療・薬事関連
などの業務を担う

研修の活用事例 リスクコミュニケーションの推進

感染症危機に関する保健師研修の強化

新型コロナ前

災害支援技術研修

主催:健康福祉局福祉保健課

内容:震災を中心とした災害対応の研修

回数:1回/年



新型コロナ後(令和6年～)

健康危機管理研修Ⅰ(災害支援技術研修)

主催:健康福祉局福祉保健課

内容:震災を中心とした災害対応の研修

回数:1回/年

健康危機管理研修Ⅱ

(感染症パンデミック対応研修)

主催:医療局健康安全課

内容:リスクコミュニケーション

回数:1回/年

研修の活用事例 リスクコミュニケーションの推進

感染症危機管理リーダーシップ研修(短期)における
リスクコミュニケーションの各種講義・机上訓練



令和7年度以降のリスコミに関する取組を再構築

研修の活用事例 リスクコミュニケーションの推進

保健師の保健活動とリスクコミ

平時

- 日頃の保健活動を通じそれぞれの支援対象の状況を把握、その他の地域のステークホルダーとも関係性を築く→有事に必要な情報、情報提供の方法を把握
- 基本的な感染対策、基本的人権の尊重の啓発

福祉保健課健康づくり係
(感染症対応・健康横浜21
に基づいた健康推進)

高齢・障害支援課

こども家庭支援課

ステークホルダー

医療機関、保健活動推進員等

高齢者・障害児、地域包括支援センター等

児童・保護者等、学校、保育園等

有事

- 平時から把握していたステークホルダーが必要とする情報、情報提供の方法等に基づきリスクコミ
- 状況の変化に合わせてステークホルダーから情報を収集し、情報発信の内容や方法の検討に反映

研修の活用事例 リスクコミュニケーションの推進

	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
保健所の リスクミ体制	リスクミに関するベーシックな研修	「感染症危機におけるリスクコミュニケーションガイドライン(仮称)」策定(予定)	ガイドラインの部内、課内、各区に周知	健康安全部内、課内の リスクミ訓練 実施 有事に機能できる体制の構築と人材育成
区の保健師 のリスクミの 取組	健康危機管理研修Ⅱ 「感染症危機とリスクコミュニケーション」 講師 国立保健医療科学院 奥田博子先生	健康危機管理研修Ⅱ 「感染症危機とリスクコミュニケーション」 講師 国立保健医療科学院 富尾 淳先生(予定)	健康危機管理研修Ⅱ 「感染症危機とリスクコミュニケーション」	リスクミ想定訓練 →18区看護職 会議で想定訓練

← 3年間で市内全保健師(579人)が受講 →

研修の活用事例 （保健所から異動した場合）

- 平時からの保健所の感染症対応部門との連携
- 担当事業の展開の中で感染症対策も入れ込んでいく
 - ➡部内他課の事業についても入れ込めるような働きかけが必要
- 部署の職員への基本的な感染対策の重要性や、新興感染症に関わる研修の実施
- 自身の感染症に関する知識のアップデート

自治体に異動はつきもの。

自身が保健所にいる間に新興感染症対策についてチームで取組み、できるだけのことをして次の人に継承していくことが重要。



元気づくりステーションの皆様へ

知ってほしい5つのこと

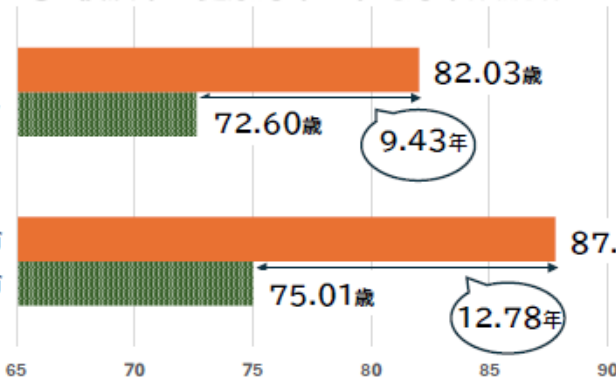
令和7年8月版

① 横浜市の健康寿命と平均寿命(令和元年)

【男性】

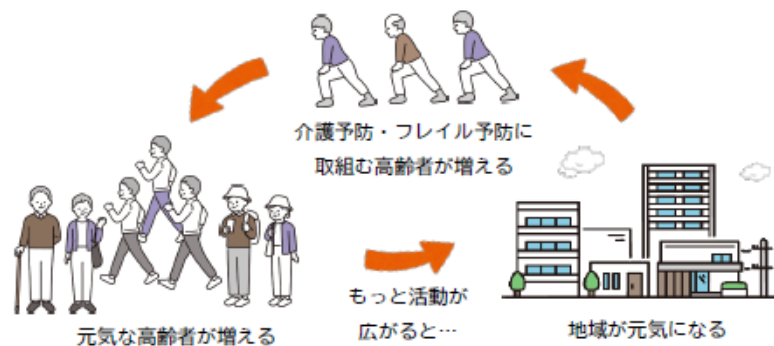
平均寿命

健康寿命



心身ともに自立し、健康的な生活をつづけるには、
介護予防・フレイル予防の取組が重要です

② 元気づくりステーションの活動の意義とは



活動に参加することでご自身が元気になり、
さらに仲間や、地域も元気になることを目指しましょう！

③ 元気づくりステーションとして活動できるのは...

自主的に下記の活動を行うことのできるグループ

- 高齢者の介護予防・フレイル予防を目指した活動内容とすること
例)ウォーキング、ロコモ予防体操、筋トレ、パタカラ体操等
- おおむね週1回程度の活動を定期的・継続的に行うこと
- おおむね10人以上の市内在住の高齢者等が参加すること
- 希望者の誰もが参加できるオープンな活動であること
参加者のイメージ:元気な高齢者、フレイル状態の高齢者、
要介護(要支援)認定を持つ高齢者等

④ 元気づくりステーションで大切にしてほしいこと

- 地域住民の方々が幅広く参加できる活動であること
- 区や地域ケアプラザと協働し、自主的な活動ができること
- 区や地域ケアプラザと協働し、地域の介護予防の核となり、
自分たちの活動の意義を理解し、周りの人や地域に発信すること

⑤ 活動を安心・安全に継続するために

● 事故予防



転倒防止



熱中症予防



仲間の体調を
気遣うことも大切です

● 感染症予防



手洗い



換気



日々の体調管理

お問い合わせ

〇〇区役所 高齢・障害支援課 担当:△△TELO〇〇〇—〇〇〇〇

感染症危機管理リーダーシップ研修に適している対象者像

保健師が研修を受講すると想定したら、こんな保健師が受講できるとよいと思います。

- 感染症対応の経験がある
- 現に保健所で配属されている
- 推進力がある

最後に

新たな感染症について備えを着実に実施

発生時には新型コロナ時よりも少しでもスムーズに対応

(市民の命を守るため、職員の負担もできる限り軽減するため)



感染症対応やリーダーシップについて総合的に学ぶことができる感染症危機管理
リーダーシップ研修は貴重な機会です！

ご清聴ありがとうございました